

Title	伊太利に於ける社会主義学説の発達 (下)
Sub Title	
Author	金原, 賢之助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.12 (1921. 12) ,p.1693(139)- 1704(150)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19211200-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

けれどもこの試みも、衰退し行くモリスの身體を如何ともすることが出来なかつた。彼は故國に歸る止むなきに至つた。八月十八日の未明ケルプリーに着いて、直ちにケルムスコットの家に行く希望ではあつたが、彼の容態は之を許さなかつた。さうしてハンマアスミスの家にと落ちついた。九月八日には、最後の大作たる「The Sundering Flood」の最後の文章を口述し終つた。モリスの容態は悲觀しなければならぬものであつた。彼がノルウェーから歸つた當時から左肺の充血は繼續し、身體の衰弱は甚だしいものであつた。彼は死を覺悟した。死に近づくと共に自己統制の力を失つて、さうして屢々感情の激動を感じたのであつた。けれども彼は其の最後まで藝術的であつた。彼の友のアーノルド・ドルメッシ (Arnold Dolmetsch) は彼のために十六世紀の小琴を彼の請のまゝに彈い

た。さうして彼は喜んだのである。けれども死は遂に來た。十月三日の土曜日の午前十一時から十二時の間に「詩人で藝術家で、工藝家で社會主義者」であつたモリスはその多端な六十二年の生涯を終つた。さうして三日の後彼の死體は色々な草花で飾られた車に乗せられ、土地の人々に引かれて、ケルムスコットの小寺院に葬られた。彼の主治醫はモリスの死の原因について云ふ。「彼は社會主義の原理を宣傳する熱心のために犠牲になつたのだと私は斷言する」と。他の醫師はまた云ふ。「彼の病はウヰリアム・モリスだからなのだ。彼は普通の人の十人前も働いたからだ」と。私はこの犠牲の、然も自己に忠實な一生涯を甚だ尊いものと思ふ。(Mackail, II, pp. 343-367)

以上を以て、ウヰリアム・モリスの生涯と其の事業並に思想の一端を傳へ得たことと思ふ。筆者は他日の機會におい

て、モリスの著述によつて、以上數回に渉りて、傳記的に紹介したモリスの思想を系統的、組織的に論述し、他の同時代の社會思想との交渉に及びたいと考へてゐる。社會思想家としてのモリスはこの部分を附加することによつて完成する筈である。今六回に渉る長篇を欄筆するに當り、貴重な紙面を割くことを許されたる本誌編輯者と長く愛讀下さつた讀者諸君に感謝の意を表する。(一九二二・一一・一五)

伊太利に於ける社會

主義學說の發達 (下)

金原賢之助

五

社會革命家の學說の方に向つて行つた唯一の社會主義者は、國民的勇士 Giuseppe Garibaldi 其人であつた。Garibaldi は 1870 年に明かに International に左祖し、而して其れが爲に熱心

に盡力した。乍併、社會主義に對する彼の純粹なる慈善家的解釋(其解釋には經濟と政治との關係に對する一層深き理解が缺けてゐた)と、労働問題を大ざつぱりに解決することに依つて漸く基礎を置いたが尙統一の纖弱なる祖國を再び問題にし様とする彼の策戦上の配慮との此二つの事が、彼をして、假令心の定らぬ臆病ものではなかつたけれども、取りとめのない且時々は皺だらけの人の様に思はせた。彼は、Mazzini の小ブルジョア的な、國內に限られた社會主義には反對なる旨を述べた、而して International を「將來の太陽」(Sonne der Zukunft) として指示した。けれども彼は、社會主義は何人か何物かを略取せんと欲するものであると云ふ解釋には劇しく反對した。従つて富者を貧窮ならしむることよりは寧ろ貧者を富裕ならしむることに關係してゐるのであつた。彼は同時に私有財産の維

持及無産者の經濟的奴隸の廢止の爲に意見を披瀝した。彼の夢想する所は一般的自由と云ふ人類の理想であつた。洵に古き所謂社會主義はマシチェスター學派に類似する所多きものである。

Internationalistは恭順にGaribaldiを傾聴した、又彼の前に恭しく帽子を脱いだ、けれども時事問題に對しては益々彼の見解を通り越して行つた。羅馬を首府とした新王國の第一年は階級間の敵對を著しく増した。一方には資本主義的發達は益々劇しくなり、他方には貧困の増加と迄は行かなかつたとは言へ貧困の意識は増大しつゝあつた。一面には屢々遠慮なき擗取が行はれ、他の一面には憤怒と失望とは深くなりつゝあつた。

彼等が心を偏愛したと云ふことは、伊太利に於ける International の優れた倫理的本質に在

つた。勞働に於ける人間の價値を向上せしむることは、彼等の最も重要な綱領個條の一つであつた。其れは亦彼等の社會主義的解釋の結果として現はれたものであつた。社會的變革の行はるゝに當つては、先づ民衆の間に心理的集合状態が喚起されなければならなかつた、斯る心理的狀態は、資本の支配の下に於て貧窮無産者に分配せらるゝ所の、人としての價値なき分前を考察する場合に於て、最高頂に達したのである。乍併斯る考察を爲し得るが爲には、少くとも最低度の教育を必要とする、従つて、若し伊太利の社會革命家が機に乗じて強制的の且平等なる學校教育を實行したならば、其れは論理に適つたものであつた。

六

伊太利の International の最始の時期は略 1874 年迄續いた。政府及支配階級は彼等に全く無

關係であつた勞働問題が突然發生したのに驚いた。彼等は從來斯る問題は北方諸國民に限られたものと思つてゐた。茲に最始の壓迫の時代は始つた、けれども同時に International は數に於ても内部の力に於ても増大し、又黨員間にも勢力の自覺を生じた。折柄 1873 年及 1874 年は非常なる穀物の凶作とパンの騰貴とを齎らした。而して數十萬の人々を從來の小ブルジョア的な生活から無慘にも無産者の暗黒の深溝に投げ入れた。假令學説は全體として何等の變化を蒙らなかつたとするも、International の戰略が言はゞ早足から疾驅に變移したと云ふ現象に對する内在的理由は、凡て右の状態に求めなければならぬ。

壓迫は反動、勢力自覺、猛進、憤怒を惹起し易いものである。斯くして吾人は、伊太利の社會革命家——其現出の最始の時期に於ては壓迫

の鎖に對して常に倫理の手段を以て應じた所の社會革命家が、今や七十年代の半頃に於ては、革命的放浪生活の色彩を更に一層濃厚ならしむるを見るのである。新思想の平和的普及の時代は過ぎた云々と、天才的の言語學研究者 Andrea Costa の書いた宣言には述べてあつた。

「勞働者がブルジョア社會から全勞働收益に對する權利を要求する場合に、此目的貫徹の爲の唯一の手段は Gewalt である、Gewalt 其ものは善惡を超越して存す、併し其目的の基礎が其れに倫理的規範を與へてゐる、悪しき目的を帯びた Gewalt は特權を意味し、善き目的の爲に役立つ其れは正義である、社會主義者が其目的を達せんと欲するならば、彼等の反對者が其不正を維持せんが爲に用ふる Gewalt 其ものを正義に導く様に用ひなければならぬ、此經過が迅くに行はるれば行はるゝ程、民衆の貧困は益々減縮

せられ、不正は益々速かに一掃せられ、而して正義の原理が王位に上げせらるゝのである。」云々と云ふ International の策戦上の解釋は北部の労働者地方に於て失敗に歸したのであつた。

七十年代に於て、伊太利社會主義的運動は Bourgeois によつて指導されてゐた、殊にブルジョアと小ブルジョアとによりて行はれた。其運動の中心は、工業の殷盛なる北部即 Mailand, Turin, Alessandria, Monza, Biella, 等の労働者區域に於ては、はなくして、却て中部及南部の、工業的無産者に比例した貧弱なる或都市例へば Neapel, Bologna, Florenz, Imola に存した。International は各同業組合に労働者が團結するのを非常に又一時は熱心に注意した。併し其主たる活動は政治的に止まつてゐた。彼等の爲した所の労働組合に關する活動は、彼等にとつて一般的の目的の爲の手段であると共に、又短期

く離散零落の悲境に陥つた。

International の瓦解を全からしめんとせし他の原因は、正に此危急存亡の時に於て其れ自身の内に最も激烈なる意見の不一致を生じた事であつた。Bakunin の古き黨與の策戦は失敗してゐた、と云ふことは明かであつた。然るに彼等は次の主張に固執してゐた、此失敗の原因は策略其ものゝ組織に求むべきではなく、寧ろ各種の外部的の且一層偶然的の隨伴現象に求むべきである。之に反して北部に於ては、人々は決して Bakunin の思想を残らず呑み込んでゐなかつた、又黨の生命の浮沈に關する一切の場合を通じて常に、黨派問題に於ける或個人的自由を留保してゐた。が當時北部にては伊太利滯留中の佛蘭西の Commune 亡命者 Benoit Malon 並に獨乙社會民主黨の勝利との影響を受け、新しき一派即 Malonist (マロン) の説を奉ず

間の内に達せらるべき目的の爲の手段であつた。即彼等は、プロレタリアの労働組合運動を一般に知らるゝが如くに、瞬間的現象として且又其目的とせる政治運動に役立つものとして尊重した。彼等の内部を強固にし、彼等に其各種の職業的利害に適應したる立派な組織を與へると云ふことは、彼等の創始者には缺けてゐた。International は労働組合を以て、現在の社會制度の變革に對して材料を供給するの手段たらしめんとしたのであつたが、彼等の急激に實現せんとした企圖は不面目にも水泡に歸した。加之、International は其活動に於て屢々嘲笑に價するものとなつた。彼等は靈感、犠牲的能力及理想的衝動の爲に人力の能ふ限りを爲した、併し其れにも拘らず彼等が斯くも屢々受けた惡結果は、遂に労働者側に於ける凡ての信任を彼等から奪つて了つた。七十年代の末には彼等は全

る人々の一派が著名となつた。其派は有産階級は革命的以外の凡ての手段を以てする争闘を受けなければならぬ而して又特に、「合法」へ向はなければならぬと云ふ見解を持した。

七

壓迫と有罪宣告との打撃は唯、新思想の社會主義者の中に永久に生命を與へたのであつた。伊太利社會主義に於ては、Revolutionarismus を事實から思想の上に移して、革命は手段に於ては、ではなく(何となれば之は唯壓迫を受けたに過ぎぬから)寧ろ目的に求むべきであると、説明した所の一派が漸次成立した。其れは全く一般に非歴史的であり、又純粹なる理想主義的であつた。其一派は、凡ての享樂の基礎としての労働及私有財産の廢止に基く社會の建設と云ふ點に於ては、古風な International と一致してゐたけれども、社會形成の基礎に於ては然るを得な

かつた。Malonist にとつては倫理は社會主義の分度器であるのみならず、又其れの直接に強制力を有する原因であつた。財産所有の現在の形式が、人間の意識に入つて來た正義の理想と云ふものに最早適應しない場合に、其形式は變せらるゝのである。即正義の感情が社會的變革の規準として説明せらるゝのであつて、經濟的必然性ではない。社會主義の目的は可及的大なる幸福と云ふのではなくして、而も人間の出來得る丈大なる倫理的行爲であると。Malonist の國家觀も亦右の論調に一致してゐる。國家は、彼等にとつては斷然、自由の否定ではない、又支配階級の委員會でもなく、寧ろ無産階級解放運動の援助者であり、後には其れの指數となるものである。社會主義者は資本主義的國家を、労働の合法的なる又理想的なる組織に依つて漸次に、將來の社會主義的國家に轉移せしむる様

試みなければならぬ、と考へてゐた。従つて Malon は、所謂空想的社會主義者の如くに、政治的及自治的生活の一切の方面に於て現在渴望せられてゐる諸改革に對して、詳細なるプログラムを立てた所の、伊太利に於ては最初の社會主義者であつた。

斯くの如き思想を政治上活動せしめ得んが爲には、1888 年は特に好都合な年であつた。社會主義運動の一頓挫以來普通選舉權獲得運動は益々盛になりつゝあつたが、同年遂に政府は選舉權の擴張を斷行した。同法は唯十四人に一人の選舉權を與へたのみに過ぎなかつたが、其通過後合法的手段のみを目的とせる新運動が生じた。即選舉法の改正は突然労働者の多數を有権者たらしむると共に、假令無産者を選舉權より除外せし爲制限されても、尙は無産者の狹義の政治的活動の可能なることが明白となつた。假

令國家の運命の上に於てははななくとも、兎に角代議士の事務室の組織の上に於て、無産者の政治的意義と其の勢力との斯く増加した事は、貧民階級の著しき精神的向上を生じた。Malonist は、甚だ消極的な形式に於てはあつたが、議會政治に關與すること——其事を彼等は既に數年前に豫見した——の爲に直ちに精一杯の力で仕事に取掛つた。

新しき道は、無産者の法律の制定者を作るよりは、寧ろ純然たる煽動的演壇として考へられた議會に無産者の代表者を作ることであつた。彼等は其煽動的演壇からして其仕事を續けなければならなかつた、而して其れ自身の武器庫の中に在る有産階級に今一度無産者の激怒を警告しなければならぬ。最後に此方法に於て彼等の心情と理性に訴へなければならぬ、と云ふのであつた。

Bakunin は總て之等の説明に唯「裏切」と云ふ一語を以て反對した。劇しき議論は燃え上つた。其論争には兩派の卓越したる首領、舊インテリゲンチヤル側には Carlo Cafaro, Andrea Costa 及 Enrico Malatesta, 新社會主義者側には Malon 及 Palermo に於ける "Povero" の Ingegneros の外にまゝして Osvaldo Gnochi Viani 及 Enrico Bignami が干與した。

從來殆んど一般に社會主義から遠去かつてはゐたが、併し其れにも拘らず既に階級の感情を萌し始めた所の Maland の労働者達は、心に激怒と嫌忌を抱いて此軋轢を注視した。彼等の歴史的政治的教養は、其現はれたる出來事を眞髓に於て理解するには十分でなかつた。彼等即伊太利工業の首府の無産者達は只一事を觀察した、即労働者階級の著名な指導者とし振舞つた

人々は、先最初に哀むべき失敗を爲し、然る後に論争し始むるに至つたのだと。併し同時に兩派は、假令理論的には既に可なり劇しく相違してゐたとは言へ、同じ方法に於て市民的社會主義者及理想主義者に依つて指導されてゐたと云ふ事實が彼等に迫つてゐた。而して尙他の一動機があつた、即 Maland の労働者の組合は全然「労働者の友」の手中に在つたが、其援助者は少くとも労働者を労働者自身の階級の利益の爲に利用した、然るに一方に於ては、國民が黨派的に無感覺となること——其れは凡ての階級的相違を消滅せしむるもの——に労働者をして與らしめんと期待した。之等の動機は労働者をしてブルジョアの援助に對して斷乎たる態度を探らしめ、凡ての Bourgeois、民主々義者と同様に社會主義者も、有産的慈善主義者と同様に革命的理想主義者も、皆同一に取扱ひ、野心家として輕

蔑し、政治商賣屋と罵詈するに至らしめた。其れは Partito Operajo (分離した労働者) の純労働者であつた。彼等は、伊太利に於て既に Pisacane 以來理論上の意義を得又 Bakunin 以來實際上の意義を得た所の主義、換言すれば労働者の利益は他の社會階級の利益とは全く相違したものだ云ふ主義から出發した。彼等は凡て他の黨派——勿論社會主義黨も含む——からも又凡ての他の階級からも自負的に獨立して一の労働黨であり度いと思つた。彼等は率直な階級闘争の特徴を持つた急進的労働黨であつた。乍併 Partito Operajo 卽 Alfredo Angiolini が正しく述べしが如く、其本質に何等か冷感するものを持つてゐた。理想主義及感情主義の何等友ではなく、彼等には、工場及貧民共同住宅の飾氣なき壁の中で其生活を送る無産者の空虚な精神が表はれてゐた。此排他的労働者の理論

は長く維持せらるゝを得なかつた。伊太利の Proletariat は、正に各國の其れと同様に其れによつて導かれた闘争の全く複雑の爲に、日々のパンを必要とする程に知識階級を必要とした。兩者は結局同盟し 1891 年 Milan に 1892 年 Genoa に會議を開催し單一の労働黨を組織した。現在の伊太利社會黨の前身である。此黨は選舉に關與すること及議會主義の利用を價値ある闘争手段の一として主張したるを以て、1892 年の會議に於ては以前の Bakunist の一部——個人主義的要素を併吐するに至り、絶體不讓歩を固執した人々、其後 Anarchist と稱せらるゝ——を除外して了つた。

九

新社會黨の學說は Mazzini の思想から Malon の其れに至る迄の各種の思想を含んだ解し難き神祕の中に在つた、然れども此混沌の中に於て

も一の確然たる傾向が漸次優勢となつて來た。工業は活氣を呈して發達し始め、資本の集中は急速の發達を爲した、而して近世的 Proletariat が發生した。斯くして Marxismus 即國民經濟的社會主義が現はれたのである。伊太利に於ける Marxismus は理論的に Bakunismus を捕捉し、又後者は前者の爲に其土地を最も卓越した方法で準備した、と云ふことは全く疑ひがない。唯兩學說は其本來の特徴を失つた。例へば Marxismus は大體唯物史觀に於て縮少したのであるが、其史觀たるや既に Pisacane と Bakunin とに依つて知られて居り、今や Marx 流の優秀なる術語の着物を被せられたのであつた。其他の部分は、一方に於ては伊太利倫理の力強き藥と混合せらるゝと共に、他方に於ては全く調和し難き状態を以て終始した。労働階級は凡ての他の階級とは全く異つたもの

である、従つて勞働階級は自身及其利益を他より引き離さなければならぬ云々。

然れども事變は永久に此學說の不合理を説明するが如くに見えた。1898年の經濟的不景氣は、社會主義者の意志に反して、或工業中心地方に於ける勞働者をして暴動に至らしめた。此暴動は血腥く鎮壓されたのみならず又社會黨は實際政府に依つて共に劇しく抑壓された。併し後間もなく伊太利に於ては實際に自由な時代が始つた。政府は勞働運動に對して友誼的關係に入り來り、ストライキ運動と勞働組合の組織を間接に援助し、議會に於ける社會主義者を愛撫し、又五年前に十年の禁錮を宣告された Filippo Turati に大臣の職を申出た。事物の發達は社會主義者をして、一方に於ては凡ての革命的手段の背理なることを、他方に於ては緩和した態度の適當な事及合法的平和的な道を一步步々進

むの可能なることを、確信せしむる様に見えた。

斯くして Revisionismus 或は伊太利にて呼ばるゝ名に従へば riformismo が發生した。其は其強き社會主義的選舉主義的な特色に依つて促進されたのであつた。此派の首領辯士は Filippo Turati である、彼は伊太利に於けるマルクス派の創始者たりし者、又其社會的素生は縣知事の子息であつた。無産者階級の政治的及勞働組合の指導の殆んど全部が彼の跡を追つた。目的に至る迄の社會的發達及此目的其ものに就て Reformismus は何等の新學說を開陳しなかつた。彼等は勞働的 Republicanismus とも云ふべき者である。各種の革命——其れが政治的であれ經濟的であれ——の利用を非とする。彼等にとつては、社會的の革命は唯個々の改革の總計から生ずるのである。發達は彼等には非常に進化的で

ある。彼等は固より階級闘争を形式上認める、併し不知の間に Mazzinismus に立戻り、實際の改革の仕事は高き程度の階級的調和を豫想してゐると、信じてゐる。尙未熟の無産階級を將來漸次に、道徳的にも専門的にも、より高き職務に當るの資格を備ふるに至らしむること、合法的な方法に於て國家の機關に入込み得る能力——其機關を破壊する爲ではなく利用せんが爲——を其指導者に與ふること、之等の仕事は、如何なる方法に於ても、妨害さるゝを許さぬのである。其れ故彼等は革命的語句を去つて改革的の其日々の仕事に移つて行つたのである。

十

然るに Reformismus は各種の慢性的な病弱に罹つてゐると爲す者がある。彼等(Reformist)は仲介なくして Marxismus を繼承した、而し

には合法的の臨機應變主義により、又實ものである。茲に於て Labriola は結果と原因

際的には妥協政策によつて、廣大なる民衆を失つたと爲し、又其組織の諸種の矛盾を憐んだ者がある。Mark 及 Bakunin の舊來の信奉者は聯合し——其れには佛人(Georges Sorel)の影響があつた——而して新しき理論的建築物を作つた。Artur Labriola 及 Enrico Leone は其最も重要な建築家と言ひ得るであらう。彼等は其新家屋を Sindacalismo (Syndicalism) と命名した。

吾人は之に就ては多くを語らぬであらう、が唯彼等は、勞働者は其總合的利益の代表機關として勞働組合を持たねばならぬ、其勞働組合は黨派の如くに各種の社會階級から成立してゐるのではなく、其れ自體に於て既に一個の階級單位を説明してゐるものであると、考へてゐる。又彼等によると、政治的理想の實現化と云ふことは、既に達せられた經濟的理想を前提とする

との關係を Marx 主義とは反對に置いてゐる。 Marx 主義に於いては、政治的に勝利を得た社會黨が其得た權力を以て經濟的關係を修正すると云ふのである。要するに此派は非議會政策、總同盟罷工を主張する極左黨である。

今日に於て、伊太利社會主義に於ける二大系統即 Reformismus と Sindacalismo とは不倶戴天の敵として相對立してゐる。乍併伊太利社會主義者の多數は、其兩派の中間に在る社會民主主義の正統派に屬してゐる。此派は、社會黨中に社會主義の一切の要素を包容することを主張するより、Integralismus と稱せらる、其代表的首領は Enrico Ferri である。

以上を以て大體本稿を終らうと思ふのであるが、未だ右の Integralist 其他に就て述ぶ可き事が残されてゐる、併し其は他日稿を新にし得るの機會に譲り度いと思ふのである。(完)

新刊紹介

中川正左著 「鐵道論」 改訂増補版

廠 松 堂 發 行
菊 版 二 七 〇 頁
定 價 金 貳 圓 五 十 錢

本誌本年一月號に批評紹介した中川法學士の「鐵道論」は大正八年十月初めて鐵道講習會から發行せられてより大正九年四月に至るまでに既に四版を重ねて居つたが、今回舊版に改訂を加ふると同時に増補を行つて巖松堂から出版せられることとなつた。

新版は舊版に比して頁數に於て却て九頁の減少を來したが、一行の字數が詰つて居るから之を普通の字詰に引直すときは三百二十一頁に相當する、即ち正に五十五頁の増加に相當する。而して此の増加は主として「鐵道國有」及び「我國有鐵道の現況及び特色」なる二つの章が新に

加へられた爲めに生じたものである。

新に加へられたる「鐵道國有」の章は、本邦に於ける鐵道國有の顛末を記したもので、即ち第一節に於ては既に明治五年の工部省の鐵道會社取扱の儀に付伺定中に明かに示されてゐる鐵道國有の趣旨が、結局明治三十八年西園寺内閣の提出に係る鐵道國有法案の通過によつて實現せらるゝに至る迄の迂回曲折を叙し、第二節に於て鐵道國有法の内容を概説し、第三節に於て國有後の實績をば主として數字を用ひて示して居る。而して「我國有鐵道の現況及特色」の章に於ては是れ亦數字を用ひて現況が説明せられ本邦鐵道の特色五つが擧げられて居る。猶ほ最後の章「鐵道勞働」中の第二節現業員待遇中に「現業委員會」の一款を加へてその組織を述べてゐる。

改訂の個所に就ては、大體に於て、統計を新にし、法規や經營法や組織などの變更に伴つて事實の敘述を之に合致せしめたといふに過ぎずして、全體の結構や意見には殆んど變更を來し

て居らない。

新版と舊版との比較は大體右の如くであつて、概して云へば、新版は舊版とその性質に就て異なる所はない、従つて先きに私が舊版に對して加へた批評は今猶ほその儘に新版に向つて加へ得られる。殊に本邦鐵道の實際的説明に詳しくして理論が比較的少いといふ感じは、新なる二章一款の挿入によつて益々深くなつた。私は著者が常に改訂を加へて最近の狀態に於ける本邦鐵道の實相を傳へむとするの勞を多とせざるを得ない、がそれと同時に本書をして今少しく理論に強からしめられむことを渴望するものである。(増井幸雄)

森莊三郎著 勞働保險研究

四六判 二九二頁
上製貳圓四拾錢
有 斐 閣 發 行

本書は東京帝國大學に於いて保險學の講座を擔當する博士が大正六年より大正九年に至る四